

本校は、研究教科を体育科として、「自らの健康や安全について考え、命・心・体を大切にできる子どもの育成」を目指し、「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりに取り組んでいます。また、特別の教科 道徳科や総合的な学習の時間でも、いのちの学習に重点をおき、自他の生命の大切さを考える時間を増やすようにしています。

1. 児童について

児童全体の分析として、第1回目のアンケートに引き続き、本校児童は規範意識や人権感覚が十分育成されていると言えます。第1回目のアンケート項目について以下の項目を課題としてとらえていました。

(5)すすんで読書に取り組む (9)早寝・早起き・朝ごはんを心がける (10)自分の考えや思いを話す

(5)においては、低学年、高学年ともに、「あまりできていない」「できていない」の割合が6%増えました。10月下旬に行った読書週間では、読書に取り組めるよう教職員がブックトークや読み聞かせを実施しましたが、継続した取組ではなかったことが原因と考えられます。また、アンケートの質問項目における「すすんで」という点から考えると、主体的な読書への取組については、今後も国語科の授業を通して進めていく必要があります。

(9)については、低学年、高学年とも「あまりできていない」「できていない」の割合が5~7%増えました。「みそあじ」に続く、「あはは(朝ごはん・早寝・早起き)」を子どもたちに継続して声かけをしています。また、本校では、早寝・早起きを妨げる原因として、通信型ゲーム機の使用を考えました。12月下旬に配布した「通信型ゲーム機等の使用について」にも記載したように、本校児童の30%以上が平日に通信型ゲーム機を60分以上使用していました。ケータイ電話やスマートフォンだけでなく、通信型ゲーム機についても、ご家庭と連携していきたいと思いますので、ご協力をお願いします。また、生活チェックシートでは、レーダーチャートにより、子ども自身が主体的に健康な生活に取り組めるように進めていきます。

(10)については、低学年、高学年ともアンケート結果に大きな変化はありませんでした。教職員間で具体的な取り組み実践の事例を共有したり、よりよい指導法を検討したりしていましたが、取組方に大きな変化は見られませんでした。全体の場で挙手による発表だけが、「自分の考えや思いを話す場面」でないことを再確認していきたいと思います。

2. 教職員について

教職員の結果分析として、第1回目のアンケートに引き続き、第2回目のアンケート結果でも各項目で「できていない」と答える教職員は、ほとんどいませんでした。第1回目のアンケートで課題とらえていたのは、以下の項目です。

(5)読書活動の取り組みを工夫する (6)自主的な家庭学習の進め方を指導する (10)自分の考えや意見を話せるよう授業を工夫する

(5)について、教職員自身が自信をもって、読書に働きかけられるように図書教育研修を実施し、読み聞かせやブックトークの技法を研修し、読書週間で実践しました。教職員自身が読書の取組を実践していた読書週間中は、児童も読書活動に意欲的でした。今後は、読書タイム以外の働きかけが必要であり、国語科の授業を通して、継続した取組を大切にしていきます。

(6)については、家庭訪問で保護者に配布した「家庭学習のすすめ」を確認し、教職員間でも家庭学習でつけたい力を再確認しました。その結果第2回目の教職員アンケートでは、「あまりできていない」「できていない」の項目が改善されました。また、低学年においても、3年生になると自習学習に取り組めるようになってきているようです。

(10)については、授業を担当する教職員は、「主体的・対話的で深い学び」を日々実践できるようにしています。授業力向上を意識する中で、子どもたち同士の「対話」を高めることも、教職員にとって必要な資質と考えます。授業を実施する一人一人の教職員が「主体的・対話的で深い学び」を常に意識して、よりよい取組を見出し、実践できるようにしていきたいと考えます。また、教職員の自由記述からは「指導が目に見えるように…」と自身を振り返る記述も見られました。総合的な学習の時間の深まりが指標となるのではないかと考えています。

3. 保護者について

第1回のアンケートに引き続き、第2回のアンケートでも、読書の働きかけの「よく(大体)できている」が半数を切っていました。自由記述からは、PTAや地域として見守り活動をしてくださる中で、子ども達の「あいさつ」が、出来ていないとご意見をいただきました。あいさつについて、子どものアンケート結果を見ると、「できている」「大体できている」と80%以上が答えています。子どもにとっては、つぶやきやうなずきも「あいさつ」とらえているようです。また、下校時の道中で地域の方に「おかえり」と声をかけられると、「何と言ってよいのか分からぬ。」という子どももいました。帰宅したときは、「ただいま」と言えても、帰宅途中に「ただいま」と言うことに違和感をもっていたようでした。

あいさつについては、教職員間でも気に掛けていました。今年度の人权集会(縦割り道徳)でも、取り上げた次第です。よりよい学校生活にするための、あいさつを意識できるようにして、学年末しっかりと取り組んでいきます。